

国際交流の推進事業

「日独青少年指導者セミナーA2」

1. 趣旨

日本とドイツの青少年教育の現状や取り組みを理解し、両国の指導者が意見交換することを通して青少年指導者の資質や能力の向上を図る。

2. 事業の概要

(1) 期日

平成30年5月17日(木)～22日(火)

(2) 参加者

①参加対象 ドイツ連邦共和国在住で、青少年教育行政、青少年団体等で指導にあたる専門家でドイツ政府・ドイツ側実施機関であるドイツ連邦共和国国際ユースワーク専門機関・ベルリン日独センターにより選出された者。

②参加人数 11名

③参加者の内訳

ドイツ団員8名、団長1名、通訳1名、本部担当1名

3. 企画運営のポイント

- A2団のテーマは「子供と若者に優しい社会の実現・子供の居場所」である。ドイツ団員には福祉関係従事者が多く、福祉関係の見学先を希望する声が大きかったため、前橋・高崎周辺の福祉関係施設を訪問先として選ぶ。また、東京プログラムを補完するような、地域での取り組みを中心とした訪問場所を設定する。
- 日本文化体験の機会として、全国一の生産量を誇る群馬の達磨にちなんだ、少林山達磨寺と、ドイツ団員の興味・関心が高い、世界遺産の日光東照宮を見学先として設定する。

4. 日程

| | 午 前 | 午 後 | 夜 |
|------------------|-----------------------|--|--------------|
| 5月 17日 (木) | ・東京～高崎駅着 ・少林山達磨寺見学 | ・児童養護施設 希望館訪問 ・愛育乳児園訪問 | ・群馬県庁 31階で夕食 |
| 18日 (金) | ・群馬大学訪問 | ・サンデンフォレスト 森の hahako 園訪問 ・ホームステイ開始 | ・ホームステイ |
| 19日 (土) | ・終日ホームステイ | | |
| 20日 (日) | ・ホームステイ終了 | ・福豚の里とんとん広場(ざわざわ森)にてお別れパーティ ・赤城青少年交流の家の説明 | |
| 21日 (月) | ・日光東照宮見学 | | |
| 22日 (火) | ・群馬県中央児童相談所訪問 | ・高崎駅発～東京 | |

5. 主な活動内容



「少林山達磨寺」



「児童養護施設」



「乳児院」



「群馬大学」



「森の hahako 園」



「日光東照宮」

6. 成果と課題

(1) 参加者（ドイツ団員）の声

- ・赤城でのプログラムは少しリラックスして臨めた。赤城でのプログラムもとてもよく計画されていた。都会の雰囲気味わった東京の後に、赤城青少年交流の家周辺の閑静な場所へ移動し、ここではもっと長く過ごしたいと感じた。
- ・ホームステイは2週間の中で特別な体験だった。ホストファミリーはとてもよく面倒をみてくれ、忘れられない体験をさせてくれた。
- ・愛育乳児園への訪問は自分の中に葛藤を起こさせた。職員の優しさと引き換えの乳児収容の必要性。（このような形の施設はドイツにはない。）
- ・児童相談所の見学では特に松葉氏の講義が、日本における公的な青少年援助について学ぶ手助けとなった。
- ・朝のつどいに参加できたのは良い経験だった。
- ・周辺環境（景色、竹林）、施設、宿泊部屋（2棟の「別荘」に分かれたのはグループ内の交流という観点では大変良かった。）、食事はすべて素晴らしかった。
- ・赤城到着日のプログラムが多すぎ、すぐに移動しなければならなかった。達磨寺訪問後2つの訪問先があった。【提案：この日程では1つの訪問先だけにする。より多くの時間を意見交換のためにとれる。】
- ・森の hahako 園への訪問はより時間をかけるべきだった。私たちの訪問では非常に意義のある意見交換の最中に中断しなければならなかった。

(2) 成果

東京プログラムを補完し、深める赤城プログラムという位置づけで計画した。参加者の声からも、研修内容の深まりを感じることができ、その役割を果たせたと考える。

(3) 課題

日程の都合上、初日に訪問する場所が多くなってしまった。訪問場所数と時間配分を検討し、じっくりディスカッションするための時間を確保することも必要である。